

生産者代表の取り組み

<種子島> 砂坂 浩一郎(57歳)

南種子町きび甘しょ振興会 会長

1. 就農のきっかけ

- ▶ もともと親の代は1ha程度の土地持ち非農家で、私自身も島外に就職していたが、種子島でさとうきびを生産していた先輩の勧めでUターン就農。
- ▶ その先輩にいろいろと指導してもらって、徐々に生産規模を拡大していった。



2. 経営の概況

- ▶ さとうきび、でん粉原料用さつまいも、肉用牛繁殖の複合経営で、認定農業者。
- ▶ 耕地面積は15haのうち自作地は3ha。26年産の収穫予定面積は11ha。
- ▶ 労働力は本人、妻、息子の3人。繁忙期には臨時雇用3人。



3-1. 集落営農組織による作業受託の概要

(1) 開始当時の状況

- ▶ 平成20年に、砂坂地区さとうきび生産組合を立ち上げ。
- ▶ それまでは、個人経営者の立場で種子島農業公社から再委託を受けて、南種子町内のほ場の収穫作業を行っていたが、自分の住む砂坂集落内の依頼が増加したため、組織的に対応することにした。




3-2. 集落営農組織による作業受託の概要

(2) 現在の状況

- ▶ 受託作業は、収穫作業や株出、株揃え等の管理作業。集落内ほ場約20haをカバーしており、現状では集落内の依頼にはほぼ全て応えられている。
 - ▶ 現在の構成員は12人。収穫作業を私を中心に2~3人がメインで行っており、その他の管理作業をその他の構成員が実施。構成員が当該作業に慣れていない等の理由で一人では作業困難な場合は、補助員を付けるようなサポート体制を敷いている。
-

3-3. 集落営農組織による作業受託の概要

(3) 現在の課題とその対応策

- ▶ 構成員の高齢化(収穫作業以外の作業を行う構成員の高齢化が進んでおり、70代は今後引退していくとみられるが、50代は私を含めて収穫作業だけで手いっぱい、人手不足に陥る懸念がある)。
 - ▶ 加えて、春季は、さつまいも作付や田植えと作業が競合してしまい、さとうきび収穫後の管理作業が適期に行えない場合がある。
-
- 

3-4. 集落営農組織による作業受託の概要

(4) 今後の見通し・目標

- ▶ 地域内の生産者の高齢化が進み、担い手が育っていないのが現状である。個人的には、20代の息子が後を継ぐ予定となっているので、機械化を進めて法人化も見据え、規模拡大を図っていきたいと考えている。



<沖永良部島>瀬川 静一郎(63歳)

きびの駅 駅長

1. 就農のきっかけ

- ▶ 両親もさとうきび農家だったが、私自身はしばらくは島外で就業していた。
- ▶ しかし、「沖永良部島に戻ってきて子育てをきなさい」という母親の言葉に従って、Uターン。さとうきび農家を継ぐことにした。



2. 経営の概況

- ▶ さとうきび専業経営で、認定農業者。
- ▶ 耕地面積は18haのうち借地は16ha。26年産の収穫予定面積は15ha。
- ▶ 労働力は、本人と臨時雇用2人の3人。



3 - 1 . 集落営農組織による作業受託の概要

(1) 開始当時の状況

- ▶ 平成4年に、私の住む瀬名集落にハーベスタを導入するため「瀬名さとうきび生産組合」を設立。導入は沖永良部農業開発部会の補助によるもの。



3-2. 集落営農組織による作業受託の概要

(2) 現在の状況

- ▶ 集落内に調苗班2組、植え付け班1組、収穫班1組を配備して組単位で作業を実施している。調苗、植え付けについては、他集落からの受託も多い。
- ▶ 現在の構成員は4人で、集落内約30haのほ場をカバー。



3-3. 集落営農組織による作業受託の概要

- ▶ 集落内のさとうきび農家の高齢化も進んでいる状況だが、このような班編成を組むことによって集落全体で役割分担ができ、作業効率も良いため、集落内ほ場の単収が上がり、ほ場内の雑草等も少ない。
- ▶ また、平成19年には「瀬名糖家会(せなさたやかい)」を設立し、集落内のさとうきび生産農家が集まって、さとうきび生産力向上に向けて様々な取り組みを行っている。



3-4. 集落営農組織による作業受託の概要


(3) 現在の課題とその対応策

- ▶ 瀬名集落は塩害の被害を受ける地域で、塩害に強い品種を選定すること。



3-5. 集落営農組織による作業受託の概要

(4) 今後の見通し・目標

- ▶ 生活設計ができるよう、災害に強く、集落内のほ場の単収を向上させることが目標。
 - ▶ また、「瀬名糖家会」の取り組みをより拡大し、種子島を含む奄美群島各島間の単収を平準化させることを目的として、平成26年に「明日創りきび作り研究会」を設立したところ。若い担い手等が実践可能なさとうきび生産のあり方を模索していく。
-
- 

<沖縄本島南部>新垣 智也(27歳)

農業生産法人 有限会社大農ファーム 代表取締役

1. 就農のきっかけ

- ▶ 農協の機械銀行を前身とし、父親が平成13年に設立。
- ▶ 私自身はもともと別の職に就いていたが、父親が平成23年に亡くなり、その後を継ぐ形で、就農。



2. 経営の概況

- ▶ さとうきびと野菜の複合経営
- ▶ 耕地面積は3haで全てが借地。平成26年産の収穫予定面積は3ha。
- ▶ 労働力は、本人と従業員2人の3人。繁忙期は臨時雇用2人。



3-1. 作業受託の概要


(1) 開始当時の状況

- ▶ 平成13年(設立当初)より収穫作業の受託を開始。
- ▶ 当初の受託面積は17ha(収穫量1,077t)
- ▶ 開始当初は、ハーベスタの踏圧の問題があり、受託面積を確保するのに苦労した。また、単収の低いほ場が多く(更新前の畑の収穫)、効率が悪かった。



3-2. 作業受託の概要

(2) 現在の状況

- ▶ 受託作業は収穫作業およびトラクター作業(整地、中耕、植え付け等)である。
 - ▶ 受託面積は収穫作業が19ha(収穫量731t)、トラクター作業が延べ47haである。
 - ▶ ハーベスタ2台、トラクター3台、管理機2台、耕運機2台を所有
 - ▶ オペレーターは通常3人、収穫時期の繁忙期は5人。
-
- 

3-3. 作業受託の概要

(3) 現在の課題とその対応策

- ▶ 収穫作業等の受託面積が増え、自作地の作業に手が回らない場合がある。
- ▶ 現在、単収向上が課題であり、野菜(オクラ等)との輪作による土壌改良に取り組んでいる。



3-4. 作業受託の概要

(4) 今後の見通し・目標

- ▶ 受託作業面積を拡大したい。
- ▶ 今後は、自分よりも若手の育成(オペレーター作業を含め)も手掛けていきたい。



＜石垣島＞次呂久 栄重 (66歳)

石垣市さとうきび生産組合 組合長

1. 作業受委託の概要

石垣島では、さとうきびに関する作業受委託は、「JAおきなわ八重山地区営農振興センター」と、「石垣市農業開発組合」が主体となって行っている。



2-1. 作業受委託の開始の経緯

(1) JAおきなわ八重山地区営農振興センター

- ▶ 平成3～4年にかけて、牧草収穫など畜産関係の作業を主体として旧大浜農協営農販売課が作業受託を開始。
- ▶ その後ハーベスタ等の機械を導入。さとうきびを含む他作物の作業受託など業務多様化に対応するため、平成8年に農作業受委託課を新設。さとうきびのほか、畜産、葉たばこ、水稻等の作業を受託している。



2-2. 作業受委託の開始の経緯

(2) 一般財団法人石垣市農業開発組合

- ▶ 石垣市全体の機械化一貫体制や農作業受委託推進の目的のため昭和49年設立。
- ▶ 受委託作業はさとうきびに係るものだけを取り扱う。




3-1. 現在の取り組み状況

- ▶ 島内のさとうきび作業受託の8割は開発組合が実施しており、残り2割がJAによる受託（ハーベスタ収穫作業受託割合）。
- ▶ 委託先の決定は、収穫作業は製糖工場の農務部、それ以外の作業は生産者。
- ▶ 島内のハーベスタ収穫割合は増加傾向にあり、平成25/26年期は67%となった。




3-2. 現在の取り組み状況

(1) JAおきなわ八重山地区営農振興センター

- ▶ 受託作業内容は収穫作業、耕起・整地、植付、中耕等である。
 - ▶ 受託面積は収穫作業が180ha、トラクター作業が延べ355ha(平成25/26年期実績)。
 - ▶ ハーベスタ5台(中型)、トラクター12台を所有
 - ▶ オペレーターは通常7人、収穫時期はさらに5人に委託(ハーベスタ1台につき1人)。
-
- 

3-3. 現在の取り組み状況

(2) 一般財団法人石垣市農業開発組合

- ▶ 受託作業内容は収穫作業、耕起・整地、植付、除草剤・病虫害農薬散布、優良品種の栽培管理(石垣市委託)などである。
 - ▶ 受託面積は収穫作業が689ha、トラクター作業が延べ536ha。植付受託面積は春植え35ha、夏植え55ha(平成25/26年期実績)。ハーベスタ17台(大型3、中型12、小型2)、トラクター6台を所有。
 - ▶ オペレーターは通常5人、収穫時期はさらに17人に委託(ハーベスタ1台につき1人)。
-
- 

4 - 1 . 現在の課題とその対応策

(1) JAおきなわ八重山地区営農振興センター

- ▶ 平成6～12年に導入した施設や機械等が老朽化してきており、一括交付金等を利用したリース事業を積極的に活用して更新を図っている。



4-2. 現在の課題とその対応策

(2) 一般財団法人石垣市農業開発組合

- ▶ 受託料の負担で、農家の手取りが少なくなっている。
 - ▶ 受託料が安くなれば機械や設備の利用率も伸びると思われることから、生産者サイドとしては受託料の引き下げを要望している。
 - ▶ 平成11/12年期以降のハーベスタ刈取料金は4,000円/トン。近年、軽油価格が高騰(55円⇒120円/ℓ)しており、コスト上昇分を料金に反映させたい意向であるが、気象災害等の影響で生産量の低迷が続いていることなどから見直しが難しい状況である。
-



5. 今後の見通し・目標

(1) JAおきなわ八重山地区営農振興センター

- ▶ 生産者の高齢化は避けては通れない課題であり、農地の集約化が近々の問題だと考えている。

(2) 一般財団法人石垣市農業開発組合

- ▶ 株出し面積の増加等に伴い単収の低下などが見られることから、生産者一人一人の栽培管理技術の向上に向け、行政・JA・製糖工場と一体となり取り組んでいく必要がある。

